

様式3 令和2年度新座市学校評価システム学校関係者評価シート

No.1

学校名	新座市立野寺小学校
実施日	令和 3年 1月 29 日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、自校の研究テーマに沿って新型コロナウイルスの感染予防に基づいた学習・指導方法を積極的に取り入れ、適切に行っている。	A	管理職、養護教諭のリーダーシップのもと、休校後の指導体制も含めて、全教職員が統一的に指導できるように配慮をしている。児童や教職員の机に飛沫防止ガードを付け、図工室を第二保健室にするなど、万全の対応に当たり、状況により予防策を変えるなど、早い対応ができています。しかし、指導実践にあたる教員によって多少個人差があり、引き続き、提案者および全教職員で一定期間で指導のあり方を振り返る必要がある。	A	管理職のリーダーシップのもと、全教職員が一体となってコロナ対応をしているのがよく伝わってくる。コロナ感染予防対策が日々変化する状況下の中、迅速に対応でき感謝している。児童も比較的安心して学校生活を送っているようである。今回フジテレビの放映を拝見してどんな事態に於いてもこれだけははずれないという平澤教諭をはじめとする先生方の信念が伝わってきた。
2	学校は、指導形態や学習方法を工夫し、個に応じた指導を適切に行っている。	B	算数においては、2～6学年まで少人数指導を実施し、きめ細かく学力向上に資する指導を実施することができた。また、T1、T2体制でのT.T指導が充実してきている。学年によっては、学習定着度によりグループを分け、習熟度別指導を行った。飛沫防止ガードの持ち運びや、自分の座席以外での学習は難しいという状況がさらなる実施を難しくさせている現状にある。個に応じた指導は時間の確保に苦慮している。	A	個に応じた指導の充実が図れてきている。授業参観等を見学してみると能力に差のあることが分かる。算数等クラスが分かれての授業は効果が上がるだろうと見てきた。工夫をしながらの授業には頭が下がると同時に、今後子供たちが楽しめる授業に取り組んでいただきたい。記録を残したり情報共有したりするなど指導の効率化を図っていききたい。教科担任制についても今後見据えていきたい。
3	学校は、ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	B	積極的にタブレットを活用していたり、若手教員が授業で工夫をして実施している場面をよく見かけたりする。今後は、低学年におけるタブレット端末を使った指導の仕方の研修や有効な使用方法があったときにICTのフォルダなどに使用法の写真等を入れて共有するなどして、もっと活用していく。	B	GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器の活用は急務となる。日々の実践の中でICT機器を積極的に活用する姿勢が肝要である。個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向け、若い(得意な)職員でチームをつくり(校務分掌化)組織的に対応していきたい。新しいデジタル教科書やタブレット等の活用を図りたい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	今年度、校務分掌が大きな3つのグループとし、主任を中心に部会が機能し始めている。その結果、計画的に部会を開き、組織的な運営ができ、全教職員が提案について共通理解を図ることができている。部会を少なくとも毎月一回定期的に実施できると、職員会議に合わせた懸案事項を考える余裕がさらに出てくる。	A	主任を中心とした校務分掌が機能し始めたのは成果である。一方でその分各先生方の時間が無くなる。是非とも長期休業中の活用を図りたい。平常はできるだけ会議の回数を減らし、授業準備の時間をしっかりと確保することが大切である。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	行事の反省を次年度や次回の実施に生かしているのが良い。しかし、一部次年度に申し送りするシステムができていない部分もあるので今後は改善していく。日課表については、概ねうまくいっているもので一部修正し、次年度にはほぼ同様の時程で進める。	A	日課表について、概ねうまくいっているのは成果である。同様に先生方で知恵を出し合って、PDCAサイクルに基づく学校経営を進めていきたい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	昇降口のドアが開放されていることが多く、児童の無断飛び出しもあることから、常に昇降口の引き戸を閉めるようにして危機管理意識を高める必要がある。避難訓練などを通して、学期に一回は見直しできるので良い。「いじめの防止等のための基本的な方針」については今年度見直しをしたので広く啓発をしていく。	B	1階昇降口、校舎側体育館通路への出入り口が開いたままになっているのを見かける。1階は1年生、職員室は2階という環境を踏まえ、不審者の対応の対策、訓練が必要である。いじめの問題は学校だけにたよるのではなく、地域でも見守りを大事にしていきたいと思う。学校、PTA、地域、警察が一体となった取組が必要である。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	野寺小学校の授業の流れが提示されていて学習ルールが統一されており、児童の意識も高い。授業開始のあいさつのルールが徹底され、進級してもスムーズに授業ができ、指導の一貫性が生まれ、今後は、家庭への協力が得られるようにしたい。	A	教職員全員が統一したルールで授業が行われているのは評価できる。家庭への協力についてはPTAや学校運営協議会からの協力という形でお願いとよい。今年度行ったPTA役員との懇談は有効であった。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	コロナ禍でも飛沫防止ガードを活用するなど、言語活動を工夫しているが、教員により多少差があるように感じる。また、発達の段階を考え、低学年からしっかりと中学年、高学年につなげていく共通理解、共通指導が必要である。	B	思考力・判断力・表現力等の育成に結びつく「言語活動」としたい。コロナの関係で席から離れたりすることができないが、これからの指導でどうなるか工夫が必要である。ここでもICT機器の活用を図りたい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	大学教授や市内校長を指導者として招聘し、研究授業を4回実施し、学習指導要領を踏まえた指導の研修を実施するなど、児童の実態に合わせた学習指導を行っている。学期末の定着度テストも実施している。若手教員による「チャレンジ研修会」(ミニ研修)が実施できた。継続をしていく。	A	3年間続けてきた委嘱研究をまとめることができたのは大きな成果である。リモートによる発表会となったが、「考える力を身につけ、できる・わかる喜びを感じ、生活や学習に生かすことのできる児童の育成」に向けて、全職員が一丸となって取り組めた。様々な形で研修で得られる内容は非常に大きい。今後も一年に一人一回は、授業を公開し授業力を向上させることも必要である。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	コロナ感染予防の観点から積極的に声出しができないので発音の点ではやりにくさがある。ただ、多用な考えの習得はできることもある。中学校教師が来て授業サポートしてもらうことで教科指導、生徒指導の両面から小中連携ができていく。講師の発音や国際理解の学習が非常に充実している。	A	コロナ感染予防の中で、工夫しながら取り組んでいる。英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)を今後も進めたい。小中の連携を図れたのが成果である。今後継続したい取り組みである。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いのできるよう指導している。	B	生活目標を中心に、言葉遣いや挨拶について意識できるように毎日確認している学級が多く、児童の意識も向上してきている。あいさつ運動なども有効。児童を呼び捨てにしている教員もときどき見られ、教職員の言語環境を整える必要がある。	A	あいさつした後の「一声かけ」を継続したい。教師の正しい言葉遣いは、徹底したい。授業参観等での挨拶は、よくなってきている。登下校の挨拶も向上している。子供たちはストレスを抱えながらも私たちに笑顔でしっかりとあいさつを返してくれ校内での取組が家庭に戻っても実行されていることを感じる。若い先生が増え、野寺小も世代交代が進み、校内が活気づいていると感じる。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	生徒指導主任を中心に組織で対応できている。月の生活アンケートや代表委員の「よいところポスト」、また各学級での取り組みが有効であった。さらに自己肯定感、有用感を伸ばしていくような指導が必要である。	B	月のアンケートや「よいところポスト」など継続を図りたい。いじめの早期発見、速やかな対応を第一とし、常にアンテナを高めている。生徒指導主任を中心とした粘り強い組織的な対応を望みたい。保護者や地域の理解と協力を得たい。いろいろな事情で学校に行くことができない子供もいる。アンケート等を利用して早めに悪い芽を摘むことが非常に大事。子供たちが自由に意見を伝えられる目安箱的な役割も大事である。褒めて伸ばす教育、継続したい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	右側通行、廊下を走らずに歩くということについては教師側の意識が低い場面も見られる。教職員の前に、大人として言葉遣いや接し方、座り方など、社会人としての自覚の足りなさを感じることもあり、児童の模範となる意識のさらなる向上が必要。	B	教師による温度差の解消に向けて努力したい。4月当初だけでなく、学期学校ごとの共通認識・共通行動の確認を図りたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	コロナの状況で難しい中、工夫して取り組んでいる。先生方の負担は大きい。金曜日の朝運動は昨年度より充実している。また、休み時間の校庭使用の時間を学年に割り振るなどしているため、外で遊びたい気持ちが高まっている状況もある。	B	児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。朝運動の成果が出ている。共有したい。学年に割り振ることにより、成果を得ているのがよく分かる。児童の声をよく聞きながら継続して進めていきたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	給食中において指導はしているが、給食週間と連携できていけばやりやすくなる。栄養士が授業に参加したり、食材に関するお昼の放送がワンポイント指導になったりしていて良い。完食を目指す指導ではなく、児童に合わせた指導方法も今後は必要である。	B	季節や行事毎に合った給食を提供することで子供たちにも関心が持ててよい。給食だよりは旬の食べ物など、記載していただいている。コロナ禍での給食時間の過ごし方も工夫が必要である。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	教員が知り得た情報が迅速に管理職に伝わり、学校全体で保護者や地域の方の話をよく聞き、対応ができており、信頼関係が深まった。オヤとも会の発足、学校運営協議会とPTA役員との連携が図られ、さらに学校応援団の活動が進むことが期待できる。	A	オヤとも会の満行寺における行事に参加させていただいた。又PTA役員との話し合いの場も設けていただいた。学校をとりまく環境が大きく広がっている現状は今後の学校運営にも必ず良い結果が生まれてくものと考えられる。 とにかく、学校、PTA、地域の三位が信頼関係を持ち、子供たちの学校生活が安心できることが一番である。 地域防災の拠点としての学校 東日本大震災のような災害が起きた際は避難所としての役割が期待されます。地域、町内会との更なる連携で効果的な避難所としての機能をそなえるべく市や教育委員会と検討していきたい。(教室の利用等)
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	管理職を中心に学校ホームページの毎日の更新、学年便りなどで、教育の方針や学校教育活動を可能な限り、保護者や地域の方に伝えている。	A	学校便りや、ホームページなど常に学校の情報を提供している。情報を共有することで、学校とのつながりをさらに深められている。 毎日の限られた時間でのHPの更新、大変だと思うが関係者にとっては学校での様子が視覚で捉える一番の手法、ぜひ継続してほしい。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	野寺小学校の畑や田んぼについての手入れが行き届き、素晴らしい環境である。また、コロナ感染予防の制限がある中で学習補助による体験活動、大掃除、消毒作業、登下校の見守りの協力など、保護者や地域の方々の大きな支えがあり、大変充実した教育活動を展開している。	A	野寺小独自の学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。お互い感謝の心を大切にしている。1年間の成果を振り返られる場があると、活性化につながる。 保護者・地域でも児童の見守りをしていると思うが、子供たちの下校時の保護者の協力がもう少しあってもよいのでは。校内は手入れが行き届いていると思う。(田んぼ、畑、花壇等)